３　教科別，観点別及び領域別の結果概要

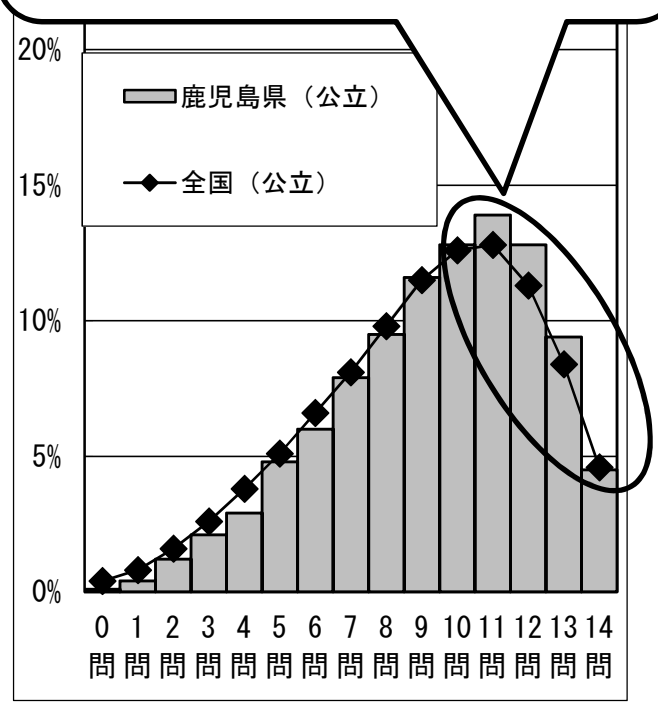
※ 下線の値は全国(公立)の中央値＋1問にそろえています。

（１）　教科別正答数分布から

【小学校】

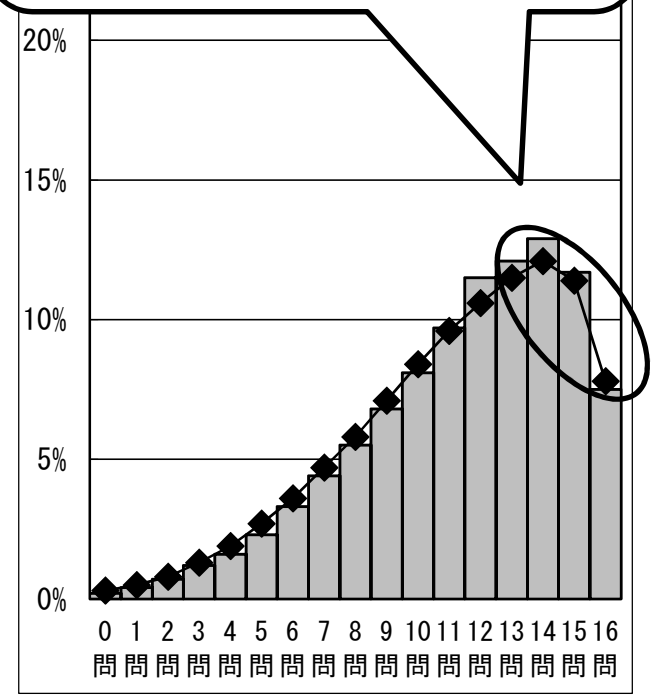
〔国語〕

・　10問以上正答した児童の割合が全国より大きい。〔本県53.4%　全国49.7%〕
・　前回調査〔本県42.8%〕より上位層が増えたことから，中位層への指導の手立てが効果的であった。



〔算数〕

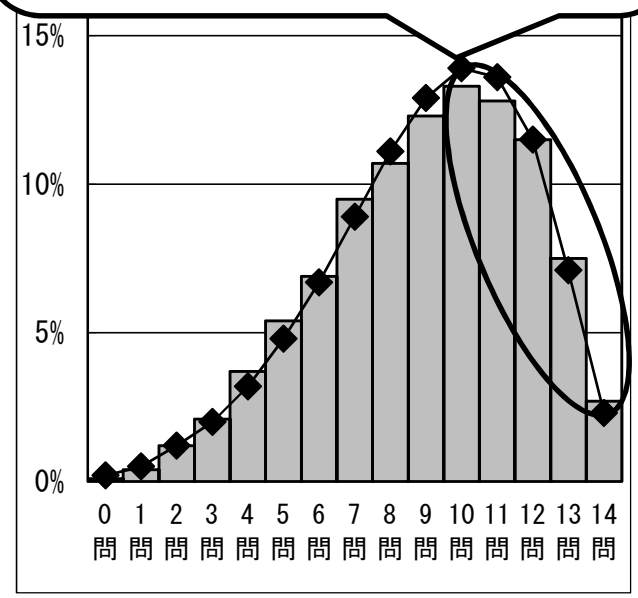
・　13問以上正答した児童の割合が全国より大きい。〔本県44.2%　全国42.8%〕
・　前回調査〔本県39.0%〕より上位層が増えたことから，中位層への指導の手立てが効果的であった。



【中学校】

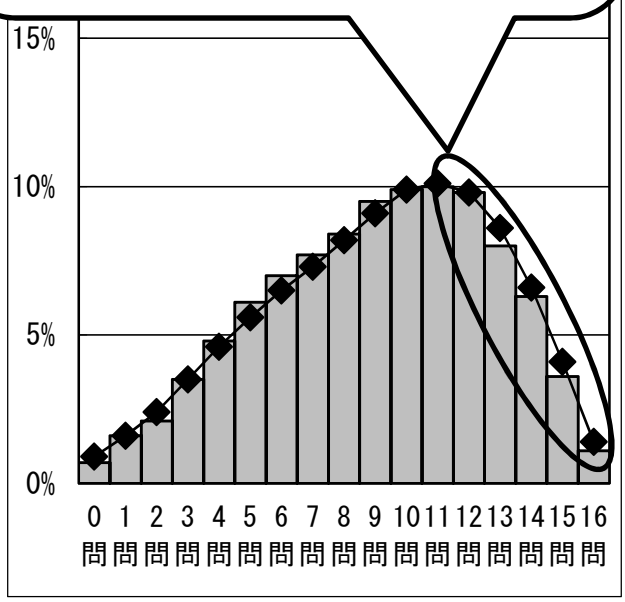
〔国語〕

・　10問以上正答した生徒の割合が全国とほぼ同じ。〔本県47.8%　全国48.4%〕
・　前回調査〔本県33.1%〕より上位層が増えたことから，中位層への指導の手立てが効果的であった。
・　中位層への効果的な手立ての継続と，下位層の実態に応じた手立てが必要。



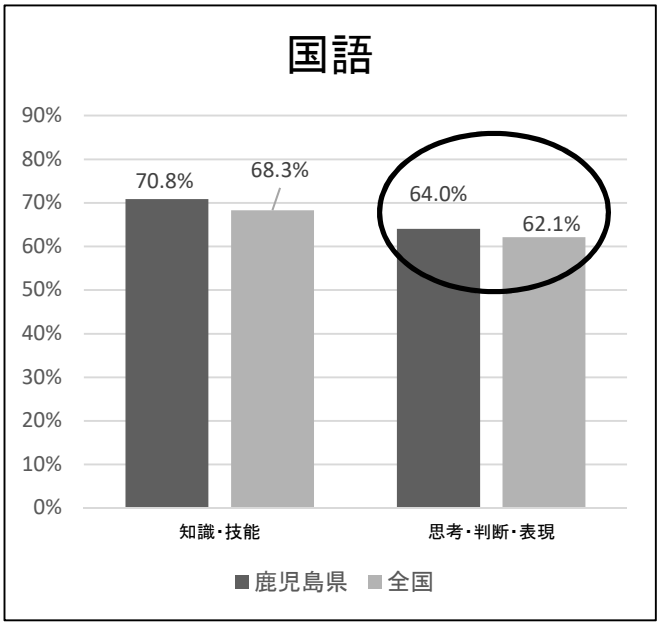
〔数学〕

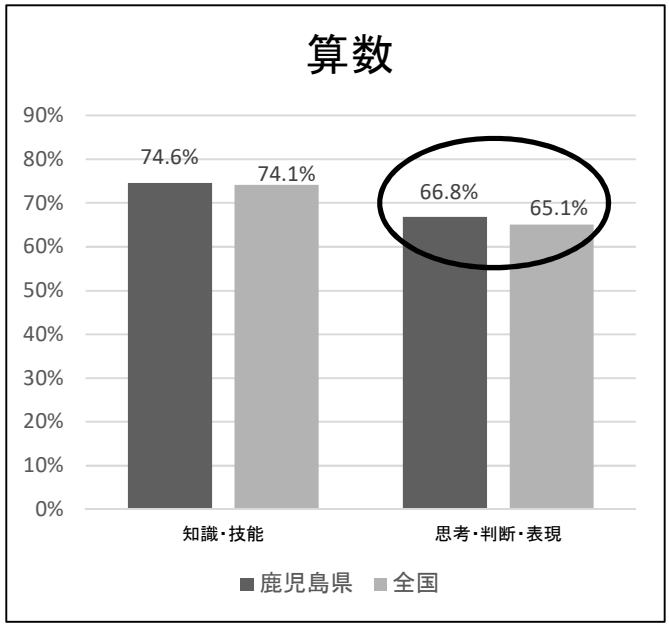
・　11問以上正答した生徒の割合が全国より少し小さい。〔本県38.8%　全国40.6%〕
・　前回調査〔本県42.8%全国47.8%〕より，全国との差は縮めつつあり，中位層への指導の手立てが効果的であった。
・　中位層への効果的な手立ての継続と，下位層の実態に応じた手立てが必要。



（2）観点別の平均正答率から

【小学校】

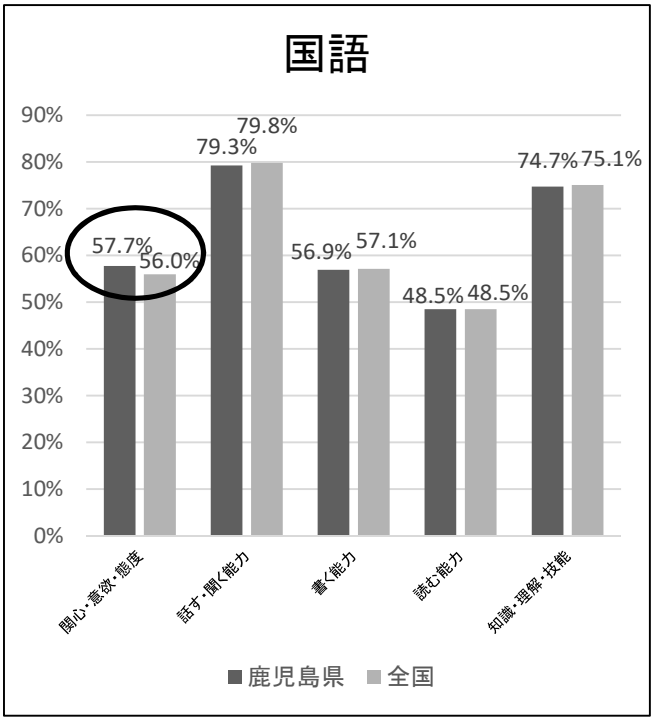


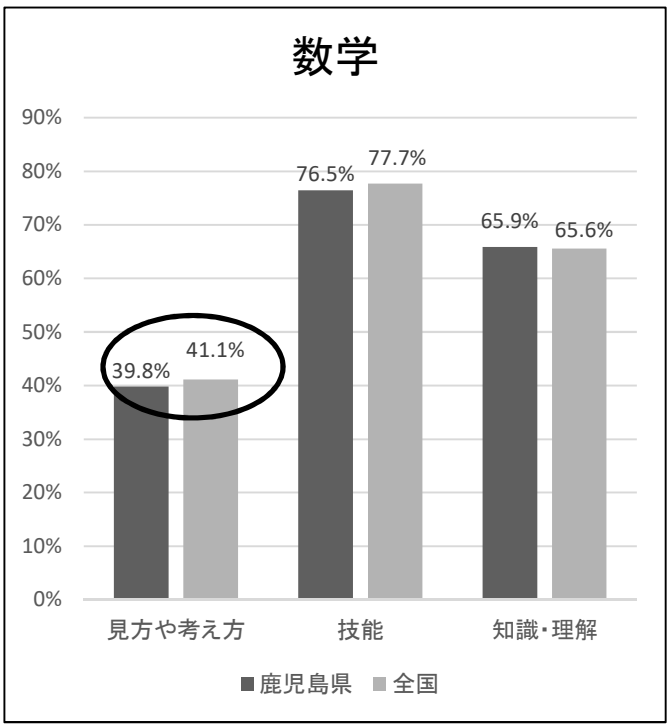


２観点ともに全国の正答率を上回っている。前回調査までは５観点であった。その中でも全国の正答率を下回っていた思考・判断・表現における「書く」能力，「読む」能力が今年度は向上している。

２観点ともに全国の正答率を上回っている。前回調査と比べると，前回－1.2ポイント（「数学的な見方・考え方」）だったものが，今年度の「思考・判断・表現」では1.7ポイント上回っている。

【中学校】



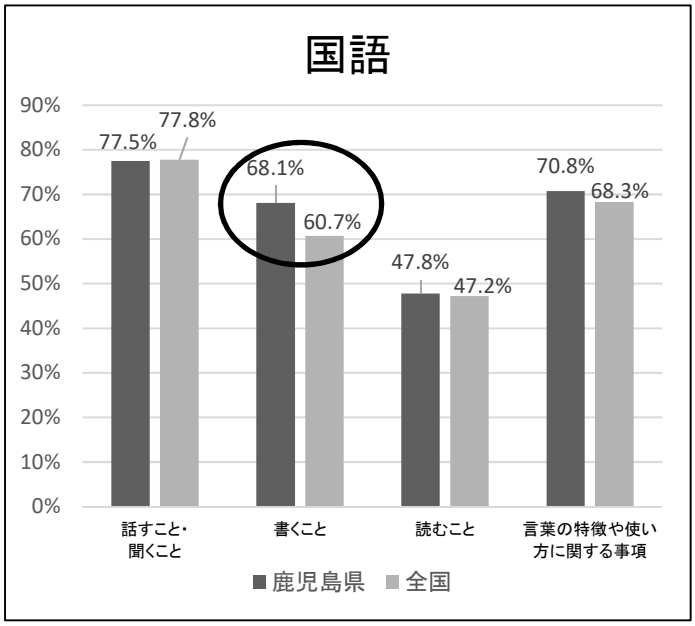


５観点のうち３観点で全国の正答率を下回っているものの，全国の正答率と大きな差はない。「関心・意欲・態度」は前回調査の－1.1と比べると，今年度は1.7ポイント上回っている。

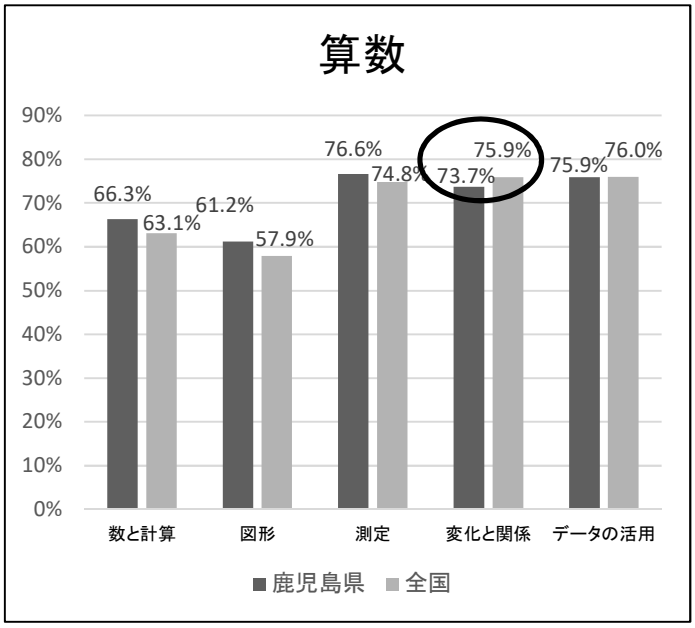
３観点のうち２観点で全国の正答率を下回っているものの，これまでの課題であった「見方や考え方」は前回調査の－3.6と比べると，今年度は－1.3ポイントと全国との差を縮めている。

（3）学習指導要領の内容における平均正答率から

【小学校】

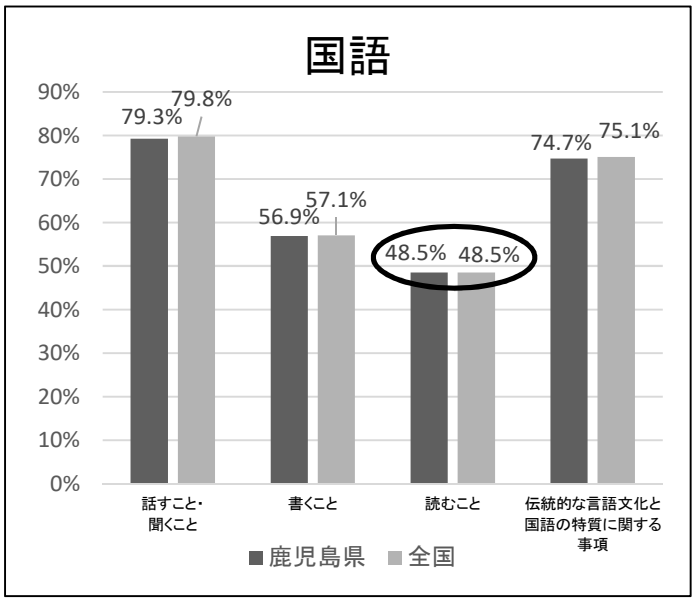


４領域のうち3領域で全国の正答率を上回っている。特に，「書くこと」で大きく上回っている（前回調査：本県51.2%，全国54.5%）。振り返りなどで複数の条件を与えて書かせる取組を徹底することにより，その成果が出てきている学校もある。

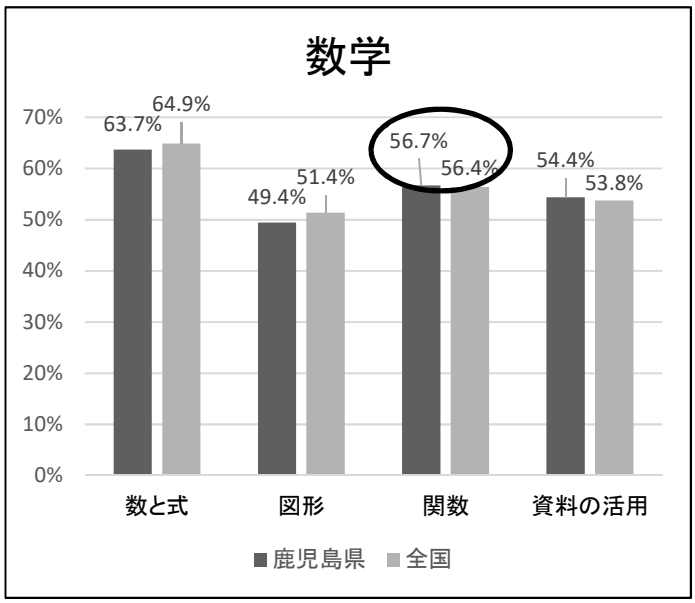


５領域のうち３領域で全国の正答率を上回っている。「変化と関係」は依然として下回っている（前回調査：本県50.7%，全国52.9%）。２つの数量に着目させ，その関係を図，数，式，表，グラフを効果的に活用した数学的活動を引き続き重視していく。

【中学校】



４領域のうち３領域で全国の正答率を下回っているものの，全国の正答率と差を縮めている。特に，「読むこと」で全国と同等となった。（前回調査：本県68.8%，全国72.2%）演習問題における「文章に表れているものの見方や考え方を捉える類題」に取り組ませた取組の成果が伺える。



４領域のうち２領域で全国の正答率を上回っている。特に，これまでの課題であった「関数」は全国の正答率を初めて上回っている。（前回調査：本県36.1%，全国40.8%）これは，過去の問題の傾向を捉えることを通して，生徒に身に付けさせる力を理解するとともに，繰り返しの指導がなされた結果と考える。